

## NPPVと私

森井里恵

ALS患者

私はALSという病気により呼吸筋が弱っているため、日中5時間ほどBiPAP<sup>(注)</sup>を使用したNPPVを行っています。病気が進行すれば、いずれは自発呼吸ができなくなり、気管切開を行うこととなりますが、その時期を少しでも先へと延ばすために、NPPVによって呼吸を助け、呼吸筋を休ませながら生活をしています。

幸いまだ何とか立ち上がることができ、かろうじて話も飲食もできるので、気管切開には踏み切れません。というのも、気管切開をすることにより、生活が一変してしまうこと

が予想されるからです。気管切開を行うと、せっかくギリギリのところに残っている身体の機能をつぶし、寝たきりになってしまうだろうと感じています。

しかし、NPPVであれば、日常生活をさほど変化させることなく療養できます。操作も装着もケアもとても簡単です。確かに、インターフェイスがキチンと顔にフィットしないと苦しく、また、空気が漏れないように装着してもらうのは大変ですが、それは装着する側と私とが、根気よくチャレンジしていくしかありません。嚥下に問題があるので唾液があふれ出たり、ホースの重みで首に負担がかかることもありますが、こうしたデメリットは、ケアとくふうでクリアしうるものだと思います。

実際、私の場合は現在、使用開始から2年2か月、NPPVで過すことができています。このまま、気管切開を行わないでいけるところまでがんばるつもりです。最近では、就寝時の装着も検討しています。BiPAPは、呼吸筋に問題がある患者にとって、すばらしい器械です。この世に「気管切開をしたい人間」なんているはずがありません。 

### 注 BiPAP

レスピロニクス社製の携帯型人工呼吸器。二相性陽圧換気モードの代名詞として定着している。

